

2023年度学校関係者評価報告

1. 評価日 2023年7月14日(金)

2. 評価方法 紙面にて

3. 評価委員

(業界関係者)	八田武志(関西福祉科学大学 名誉教授)
(業界関係者)	松原正明(愛仁会本部 常務理事兼局長)
(業界関係者)	増山路子(愛仁会本部 看護担当特任理事)
(学校運営専門家)	水口正子(明石医療センター附属看護専門学校 副学校長)
(卒業生)	池上 梓(愛仁会看護助産専門学校同窓会 会長)

4. 評価概要

2022年度学校関係者評価資料に基づく書類審査

評価項目については、自己点検・自己評価報告書の基準に基づき以下のとおり実施した。

I 教育理念・目的・育成人材像	VI 教育環境
II 学校運営	VII 学生の募集と受入れ
III 教育活動	VIII 財務
IV 学修成果	IX 法令順守
V 学生支援	X 社会貢献・地域貢献

5. 評価結果

評価基準(4:適切、3:ほぼ適切、2:やや不適切、1:不適切)に基づき、別紙の通り評価を行った。

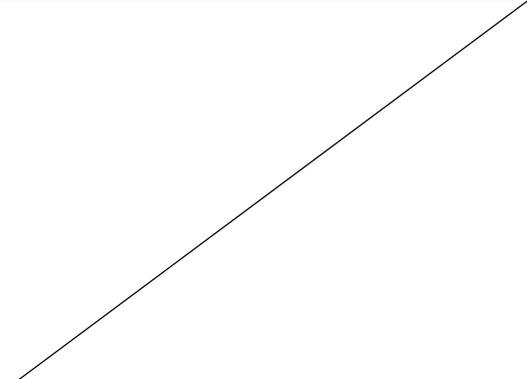
6. 今後の取り組み

各評価委員から貴重なご意見を頂き、今後も、学校関係者評価の結果を踏まえ、学校関係者と連携・協力し、教育水準の向上、学校運営の改善、強化に取り組んで参ります。

以上

2022年度分 評価結果

	自己評価	学校関係者評価
評価基準	4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切	4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切
I 教育理念・目標	3.4	4.0
	・「ヘルスプロモーション実習」や「入退院支援・外来実習」の準備の為、高槻市内の企業や学校、行政機関に実習場所を拡大させるべく交渉や調整を開始した。 ・本校のもつ強みを生かして実践者志望の優秀な学生を確保するために、本法人看護部とさらに連携して実習環境を整えようと、看護学科では指定校推薦による受験者獲得に挑戦する。	・教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーは明文化されている。今後、職員・学生へさらに浸透されることを期待する。 ・教員・学生が教育理念や目標の言葉をどう理解しているのかを日々のやり取りの中で確認する必要がある。
II 学校運営	3.5	4.0
	・学校運営方針と管理職の方針管理および職員個々の目標管理がしっかり連動することで、職員個々の業務目標達成がチームの目標達成、さらに学校運営の目標の達成につながり、職員がモチベーション高くやりがいを感じるような仕組み作りが必要である。また、職員の質向上に向けた自己研鑽の時間確保に向けた業務改善、タスクシェア・タスクシフトも検討しながら職員のワークライフバランスを考慮した勤務環境改善を継続していく。	・施設重点施策に対し、結果を出されている。今後の課題も明確になっている。 ・状況に合わせた適切な事業計画になっている。
III 教育活動	3.5	3.6
	・看護学科は、演習や実習で到達すべき技術については確実に身につけられるよう、年間計画を立て教員全体で技術教育に臨む態勢を作った。2年ぶりに3学年が縦割りにするグループ活動を行い、学生交流が活発となり、明石医療センター附属看護専門学校との学生交流が実現した。 ・助産学科は、従来の学習支援に加えて、入学前を含めた開始時期、個別支援の必要性の検討、教員の質向上のための目標管理を進めた。	・教員の資質向上への継続的な取り組みを期待する。 ・新・旧カリキュラムが混在する中、様々な取り組みができています。成績不振者への対応が求められるため、検討が必要と考える。 ・新カリキュラムへの対応、特別教育活動による学生への支援など、様々な工夫がなされている。一方で、教員の負担が気になるので、カスタマーサクセスなどの導入が負担軽減につながれば良い。
IV 学修成果	3.4	3.6
	・リモート授業を余儀なくされ、国家試験対策にも難渋したが、全員合格することができた。国家試験対策をより充実させ、維持できるように取り組むこととする。 ・法人就職に向けては愛仁会本部の協力を得て、就職セミナーやインターンシップに参加することで、働くイメージを具体化することにつながった。	・国試合格率100%は立派である。 ・再試験者状況から、学校として更に取り組む課題がある。
V 学生支援	3.5	3.2
	・複数の教員による学生への関わりや1年次に全員のカウンセリング体験の導入を試み、メンタル不調で休みがちな学生に対しては早めに保護者と連絡を取るよう心掛けた。 ・検温システム「からだポータル」を導入し、学生が体調を自己管理することができるのと同時に、教員もデータから学生の不調を早めに把握し指導につなげることができるようになった。	・メンタル不調の学生支援、実習開始直後の学生支援にご留意いただきたい。 ・学生の経済的支援、健康管理体制が整っている。1年生全員のカウンセリング体験は、良い取り組みである。 ・様々な学生が在籍する中、柔軟に対応されている。
VI 教育環境	3.5	3.6
	・大型校に新設して10年が経過し、プロジェクターの代わりに大型テレビを購入した。新カリキュラムに伴い技術到達度も変更となり簡便の演習が必修となったため装着型簡便シミュレーターを購入した。 ・危機管理委員会を発足し危機管理マニュアルの作成を行っている。	・新設移転から年数が経ち、備品関係の整備や予算化をお願いする。 ・大型校開設から10年経過しており、今後は適切なタイミングでのメンテナンスが重要である。
VII 学生の募集と受入れ	3.6	3.6
	・インスタグラムを開設し、学生の学校での様子や授業風景などを定期的に情報提供できる環境を整えた。 ・受験者数は、高い競争率水準で推移しており、定員をしっかりと確保できている。	・前年より改善されているが、定員の3倍の受験者を追求すべきである。 ・積極的な進路ガイダンス、個別訪問の成果が出ている。
VIII 財務	3.9	3.6
	・毎年、年度前に計画した収支予算案をもとに必要な経費を確保し、冗費削減を検討しながら毎月の予実管理を適正に行っている。	・適正に管理されている。 ・収入と主な支出項目の表だけでなく、予算案があるとわかりやすい。
	3.6	3.8

IX 法令等の遵守	<p>・個人情報の保護に関しては、個人情報保護方針を明文化して学生便覧にまとめ個人情報の保護の重要性とその責任を認識させることに日々努めている。</p>	<p>・個人情報、ハラスメントなど、学生自体にも理解してもらう事が必要である。</p>
X 社会貢献・地域貢献	<p style="text-align: center;">3. 1</p> <p>・教科外活動にある『学校祭』を『SDGs 活動』に変更し、学校の周辺地域における奉仕活動を通じて学校全体で社会(地域)貢献に努めた。</p>	<p style="text-align: center;">3. 8</p> <p>・地域への広がりを追求することが認知度を高め、学生受験者増につながるはずである。 ・地域貢献には様々な形があるので、新たな活動に取り組んで頂きたい。 ・貢献という考え方を学生時代から育むことはとても大切である。</p>
総評		<p>・専門学校として上質の取組ができています。 ・引き続き地域・法人のため、優秀な看護師・助産師を育成に努めてほしい。学生が学校の教育理念に基づいた活動を行い、学習を進める為にも、学生の卒業時アンケートの気になる項目については教職員一同でディスカッションする必要がある。 ・コロナ禍で、また新旧カリキュラムが混在する中での取り組みは十分評価に値する。優秀な人材を育成するためには、専任教員の質の向上は不可欠である。 ・教員の質向上のための学会・研修参加について、発表があればわかるように記載いただき、もし参加だけであれば今後は発表についても行っていただきたい。</p>